

行李

〔和爾雅五器用〕行李カウリ任和俗謂藤籃爲行李以器也

〔書言字考節用集七器財〕骨柳コウリ器本字方字柳葉條爲竹之

〔日本釋名下雜器〕行李 しろこしの書に、たびに持行物を行李と云、和俗つゝらにてあみたる器を

行李と云も、此意なり、こりと云はあやまり也、たびにゆく装物を一行行李二行李などいへり、

〔和漢三才圖會三十二家飾具〕行李季與、理、通、加、字、里、柳 箒今云柳

左傳云、不使一介行李告于寡君、注云、一介一人也、行李遠行必有行囊也、又云、人將行先治裝者曰行李、

李、

按凡以貨齋一箇稱一行行李者、據于此矣、今織藤蔓作筒、呼名行李、出於江州水口者、小而精巧、有圓有

方、以堪爲櫛筒、出於江州高宮者、以真藤作之甚佳、

箒箒 字彙云、箒、箒屈竹爲器、北方多以柳條爲之、出於但州豐岡、同出石織、杷柳條名柳、行李、形長而

方也、可容衣一二領、因州用瀬之產次之、形四長隋也、其小者用行人堪貯飯、

〔守貞漫稿後集四雜器〕今世民間ニテ衣類等携へ行クトアレバ、柳、合、利、或ハ南部籠ノ類ニ納之、風呂敷ニ包ミ負之、或ハ行李及籠ニ納レズ、直ニ風呂敷ニテ包ミ携フトモ專ラ也、

〔毛吹草三〕山城 網。代。籠。履。 近江 籠履 越前 戸口網代籠履 但馬 柳籠履 備

中 柳籠履 備後 柳籠履 日向 藤籠履 藤籠履

〔世間母親容氣四〕母から呑込む酒屋の聲殿

實に世は、人聞に驚く物なり、略中 水口。江。の。骨。柳。但馬より京へ出し、京にて縁を仕立て水口へ

出すに、京の人十三里に近き道を買ふて歸れば、略下

〔續近世崎人傳四〕雇人要助

花顛因にいふ、略中 柳骨折の比よきに、れんじやくをかけて、笈のごとく仕立るものを用意し置